

図書館ブックボックス事業拡充に向けた実証実験について

1. 主旨

区立図書館では、閉館している時間帯でも予約した資料を受け取ることができるブックボックス事業について、これまで小田急線下北沢駅構内をはじめ、全4か所に設置し、好評を得ているが、ボックスへの図書の投函等の配送作業は近隣にある図書館の職員が行っている。

今後、より一層の利便性の向上に向けて、近隣に図書館がない場所にも設置し運用していくためには、新たな配送の仕組みを構築する必要があることから、区の実証実験提案制度を活用した提案事業者（※1）による予約図書の配送サービス実証を行うこととし、その内容等について報告する。

※1 提案事業者：日鉄ソリューションズ（株）（東京都港区虎ノ門1-17-1）

2. 実証実験の内容

玉川総合支所にブックボックスを設置したうえで、受取先を同所に指定された予約図書を中央図書館で用意し、ギグワーカー（※2）が中央図書館から玉川総合支所のブックボックスまで配送する。

※2 ギグワーカー：発注事業者からの単発の仕事を、主にインターネットのプラットフォームを通じて請け負う人

3. 利用の流れ

①利用者が、玉川総合支所ブックボックスを受取先として図書を予約登録する。

（通常の予約登録と同様にWeb等から申請する。）

②中央図書館で予約図書を準備（同館内で保管）

③ギグワーカーが図書を回収し、玉川総合支所の指定されたボックスまで配送する。

④利用者にメール等により資料が用意できたことが通知される。

⑤利用者が指定のボックスから資料を取り出す（共通利用カードをかざすことで取り出すことができる。）

⑥各図書館や図書室、図書館カウンター、玉川・砧総合支所の返却用ポストへ返却可能

※ブックボックスの入庫から一定期間（8日間）経過しても取りに来ない場合には、ギグワーカーが資料を回収し、中央図書館へ配送する。

4. 実証実験の期間等

令和8年6月24日～令和9年3月31日

※検証結果に基づき、令和9年度以降の事業化の可否等を決定する。

5. 経費（令和8年度当初予算）

約2,300千円（配送委託料、システム使用料、消耗品費）

※ブックボックス本体及び設置に係る経費は提案事業者において負担する。